神人一体、心ふるわす「祈り」の舞

公益財団法人 西日本シティ財団 発足記念事業

ココロがある。コタエがある。 西日本シティ銀行 創立20周年記念事業

西日本シティ財団が主催する「日本の神様と舞い踊ろう～地域に根付く神楽と神舞～」は2月24日、福岡市の大濠公園能楽堂で行われます。2015年から毎年開催され、第10回の節目となる本年度は出演団体を九州全域から招き、各地で継承されている多様な舞を市民に披露します。本年度は長年主催してきた福岡文化財団が昨年4月に内閣府の認定を受けて西日本国際財団と合併し、九州・山口・沖縄地域を活動対象とする「西日本シティ財団」として発足。共催する西日本シティ銀行の創立20周年でもあります。そこで神楽の国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化遺産登録を目指している全国神楽継承・振興協議会の後藤俊彦会長（宮崎県・高千穂神社宮司）と、芸術や音楽、歴史など多様な文化活動を積極的に支援してきた西日本シティ財団の久保田勇夫理事長が、地域の伝統文化・伝統芸能を次世代に残していくことの重要性について対談を行いました。（文中敬称略）

西日本シティ財団の文化事業

文化の振興は地域金融機関の「使命」

―本年度で10回目となる「日本の神様と舞い踊ろう」は、どのように始まったのでしょう。

久保田　「地域銀行の発展は、地元経済の発展と共にある」との思いから、私たちは地域の文化活動を積極的に支援してきました。西日本銀行と福岡シティ銀行の合併で西日本シティ銀行が誕生（2004年10月）した後も、それぞれの銀行が行ってきた文化事業に端を発するもので、2007年以降、能楽や文楽など伝統芸能の上演や、著名な文化人・芸術家による講演などを通じて、広く市民に日本文化への興味・関心を持ってもらう取り組みを続けていました。

その後、これらの事業を発展解消させる形で誕生したのが、特色ある地域文化として継承されてきた神楽や地域の神社に伝わる神舞等をメインテーマとした「日本の神様と舞い踊ろう」です。

これまで通算30の団体に延べ35回出演してもらいましたが、福岡文化財団の活動エリアは福岡県内に限定されていたため、出演団体も福岡の団体のみでした。それが昨年4月の西日本シティ財団の誕生で活動地域が九州・山口・沖縄へと広がったため、当事業をもう少し全国的なものにしたいと考えたのです。

―33番ある高千穂神楽の中で、後藤宮司が一番見ていただきたい演目はどれでしょう。

後藤　神楽は年に一度、神が時と場所を定めて降りて来て、神と人とが一体となって秋の実りに感謝し、歌舞を尽くして喜び合い、翌日には本をつたわって神の世界へ帰って行くというものです。その意味では「杉登り」という演目があり、舞のテンポが美しくて速く、登場する鬼神の動きも厳かで見応えがあります。

久保田　外国人や若者に受け入れられるようにするため、振り付けや衣装、上演時間など演目の改変はどの程度まで可能ですか。

後藤　海に近い地域の神楽は、高千穂神楽のような山あいの神楽に比べて衣装が派手で色鮮やかです。

神楽は本来、地域の祭りであり、「祈り」でもありました。好きなように変えていたら、そこに込められていた祈りが失われてしまいます。でも、全く変えないというわけでもない。

数年前、神様の棲（す）む森と神楽の舞台を結ぶ「緑の糸」と呼ばれるしめ縄を観客が手に触れて一緒に歌って踊れるようにしました。寒さを我慢しながら夜を徹して見物しているだけだったのが、お客さんも参加できる工夫をしたところ、大喜びで会場が賑く盛り上がりました。物事の「命」をつなぐために、そういう変化も必要です。一方で恣意的な変化は、その形をつくった「心」が見えなくなる恐れがあります。

理事長のご指摘もよく分かります。現在、全国神楽継承・振興協議会には国の重要無形民俗文化財40団体のうち、38団体が加盟しています。設立する時に壁となったのが「昔からのしきたりなので変えられない」という反応です。そこで私は「しきたりも大事ではあるが、存続していくためには、しきたりを改めなければならない時もある」と申し上げたのです。

今まで神楽は地域の共同体を一つにするものでしたが、現在はそれだけに固執していては未来がありません。地域を超えて、より広い共同体のためにあるという意識の持ち方も重要になってきました。

―高千穂神楽は以前から観光神楽を続けています。今後はそのような取り組みが各地でもっと必要なのではないでしょうか。

後藤　高千穂神楽は毎晩8～9回、高千穂神社の神楽殿で夜神楽を奉納しています。地元の観光業の方々が「夜の楽しみが少ない観光客のために、せめて伝統の神楽を見てもらおう」と1971年から始めました。

町内の16団体が交代で担当し、高千穂の観光や知名度向上に大きく貢献してきました。現在は各団体のリーダー養成や大学の研究者の講演を聞く会など、人材を育てる努力もしています。

久保田　神楽が持つ日本の伝統的な価値観には、非常に大切なものがありますが、われわれとしても引き続き伝統芸術への支援を一生懸命やっていきたいと思います。本年度は「日本の神様と舞い踊ろう」が10回目の節目を迎えます。ぜひ神楽の継承・振興に早くから取り組んできた高千穂神楽を福岡の皆さんに披露していただきたいと思います。

後藤　大変意義のあるイベントに参加させていただけることは、高千穂神楽にとって大変名誉なことです。喜んで出演させていただきます。

「言霊」と言って、言葉にも魂があるといいます。神楽の歌と舞いに込められた祈りはさらにその魂を高めるものです。古代にあっては宗教的儀式の一部だったと思います。今回の対談でも神楽が広まり、新しい活路を得られるのではないかという期待が高まりました。

久保田　ありがとうございます。多くの地域にさまざまな種類の神楽がある。確かに日本は言霊の国ですから、言葉に出して物事を進めていくことが大切です。2月の公演を楽しみにしています。

神楽の未来

「命」つなぐために変化も必要

第10回「日本の神様と舞い踊ろう」～地域に根付く神楽と神舞～ 福岡市で2月24日開催

神楽を地域再生の原動力に

―貴重な無形民俗文化財の神楽ですが、担い手不足などにより存続が危ぶまれています。こうした現状をどう捉えていますか。

後藤　地域の人口減を背景に、高千穂神楽も全国の神楽と同じような危機に直面しています。宮崎県内では207、全国には約450の神楽団体があるといわれていますが、その中には国の重要無形民俗文化財に指定されながら、ここ数年で活動が途絶えた団体もあります。過去の戦争で担い手や指導者が亡くなったり、戦後は占領政策の一環で上演が禁じられたり。伝承の危機はこれまでも多々ありましたが、最近は過疎化や少子高齢化で地域の力が急速に衰えています。

高千穂の夜神楽は秋の収穫への感謝祭、冬の鎮魂儀礼、春の豊穣予祝を祈願する地域の祭りで、氏神様を里の神楽宿にお招きし、33番（演目）の神楽を夜を徹して奉納します。私が高千穂神社に奉職した50年前は、各集落に親子3世代で住む家庭も多く、舞い手や神楽宿の賄いなどを担当し、全員で支えていました。

全国神楽継承・振興協議会を立ち上げた理由は、人々の心を一つにし、地域の衰退を防いでまた神楽を振興させることで、地域再生の原動力にできないかと考えたからです。最近は神楽に興味を持つ人が増えています。地域外の人であっても一緒に加えるなど、互いに意見を出し、励まし合いながら全国規模で神楽を残していこうというのが協議会の狙いです。



―貴重な無形民俗文化財ユネスコの無形文化遺産登録を目指しています。

後藤　1980年にFIDEM（国際ビー）の招待で、高千穂神楽の欧州公演を行いました。初の試みで、私は興奮していたのですが、出発前に大学の恩師に「転落すると一巻の終わりだぞ」と言われたのを覚えています。

日本の神事芸能がキリスト教文化の人たちに分かるだろうか、と指摘され、少し自信をなくしたままの渡欧でした。

4カ国11都市を回ったのですが、フランスからスイス、西ドイツと上演する度に観客が増え、公演後には私たちの移動バスを追いかけて来るファンもいたほどで、最後のオランダでは観客がピュー・ティフル」と連呼しスタンディングオベーションで絶賛してくれて、とても不思議な気持ちでした。

それから数年後、アイルランドの駐日大使が高千穂神社においでになり、神楽をお見てなさったところ、大変喜ばれました。お聞きすると、アイルランドは今はキリスト教国ですがカトリックが多数だが、それ以前には自然崇拝や多神教であったケルト文化があった。そのケルトや神話を母親たちから聞いて育った自分たちにとって、キリスト教とそれ以前のケルト文化の両方を持っていることが自分たちの誇りであり、アイデンティティーなのだと。

その話に、なぜ高千穂神楽が欧州で絶賛されたのか理解できた気がしました。欧州にもかつては自然崇拝の時代があり、長年人々の心に受け継がれてきた、わが国の地方文化と思っていた神楽に、かなり普遍的な力があるとの分かり、自信と誇りを持てたことが、ユネスコ登録を目指す一因となっています。

久保田　神楽が地域のコミュニティーを一つにしていたというのは大事な点で、あらためて地方の人口減少が神楽の盛衰に関わっていることが分かる話です。また、神楽の価値を今後どう理解してもらうのかという点も大切な課題です。そもそもなぜ神楽はこれほど長く続いてきたのでしょう。

後藤　それは多分、人々が常に自然の神々を畏敬し、地域の無病息災や繁栄につなげようと意識してきたからだと思います。人々は「地域のため」という祈りと志を胸に、それぞれが力を合わせて神楽を奉納してきました。その年にあった幸も不幸も共に分かち合いながら、地域が一つにまとまっていく。そのような不思議な力が神楽にはあるのだと思います。



それと日本人には「公共のため」という自己責任と自己犠牲の思いが昔からあります。例えば神社は「鎮守の森」と呼ばれるように、昔から「山」を大切にしてきました。木の実や動物など、山の恵みや流れ出るきれいな川の水が古里を潤してくれる。山は命を守ってくれる存在であり、死者の魂が眠る場所でもあるという信仰です。山を敬うということは、恩恵を受けている地域全体の問題なのです。

一方、仏教は「生老病死」など、個人的なものの解決する手段として浸透してきました。わが国では仏教が入って来たとき、「異国の神」の一つとして受け入れました。だから神社のお祭りでも神輿を担ぐ時に神道とか仏教とかいう区別はしない。そのような伝統がしめ縄のように結び合ってずっと続いてきたのだと思います。

久保田　神楽が継承されてきた理由の一つに、地域社会に一体感を生み出す力があるというのは、大変興味深い話です。

また、日本人の物事の多様性を認める寛容な価値観についても指摘されました。これは欧米諸国とは大きな違いですね。キリスト教もイスラム教も一神教ですが、神道は「八百万の神。さまざまな神が共存し、排除しないというアジア的な要素があるかもしれません。

もう一つ思ったのが、神楽が地域を支える一つの尺度になっていたということ。福岡では昔から「博多仁和加（にわか）」「福岡市指定無形民俗文化財」が盛んです。いくつかのジャンルがあるのですが、その代表的なものは「にわか師」と言われる半面を着け、博多弁を使い、世相を題材に会話の最後に面白いオチをつけるというものです。「面」をつけて顔を隠し、権力者に面と向かって言えない批判をするという「時局ものが評価される傾向があります。

私が育った地域では、かつて「面物にわか」というのが盛んでした。若者が演ずるものでしたが、その後、大人になり立派なリーダーになれるかどうかを評価する際、「あの人は仁和加もできなかった」というのが大きな評価基準になっていました。似たような意味で神楽というのは地域を一つにする力という点で、人を見極める共通の財産だったのではないでしょうか。

私が育った地域では、かつて「面物にわか」というのが盛んでした。若者が演ずるものでしたが、その後、大人になり立派なリーダーになれるかどうかを評価する際、「あの人は仁和加もできなかった」というのが大きな評価基準になっていました。似たような意味で神楽というのは地域を一つにする力という点で、人を見極める共通の財産だったのではないでしょうか。

私はそれが今の世の中にとっても大切なものだと思いますし、「日本の神様と舞い踊ろう」を長年続けていただいていることに大変心強い思いがします。



くぼた・いさお　1942年生まれ。両親の地である福岡県で育つ。福岡県立修猷館高校、東京大学を卒業し、66年に大蔵省（現財務省）入省。69年、オックスフォード大学経済学修士。国際金融局次長、関税局長、国土事務次官、都市基盤整備公団副総裁、ローン・スター・ジャパン会長などを経て2006年に西日本シティ銀行頭取に就任。同行会長および西日本フィナンシャルホールディングス（FH）会長を務める。14年から西日本国際財団理事長、15年から福岡文化財団理事長を務め、両財団の合併により24年4月から西日本シティ財団理事長に就任。24年6月から西日本シティ銀行特別顧問に就任した。



さらにユネスコの無形文化遺産登録を目指すというのは大切な話です。大分の歌舞伎役者の市川團十郎さんと対談した際、彼が海外公演の難しさを語っていました。その際に私は「まずは国内で足場を固めた方が良いのでは」と申し上げたことがあります。

ユネスコに登録申請するには、世界に打って出るのは大変良いことですが、私は真に日本人の理解や支持を得たものでないと、世界では受け入れられないと思うのです。まずは日本人に対して「日本にはこんなに素晴らしいものがある」ということをしっかり伝えて、進めていくと良いと思います。

企画・制作＝西日本新聞社 営業局
西日本シティ銀行 コンシューマビジネス本部



日本の神様と舞い踊ろう
～地域に根付く神楽と神舞～

鑑賞者無料ご招待(全席指定)〈400名様〉

令和7年2月24日〈月・休〉

◆ 15時開演～17時終演予定（開場14時半）
◆ 会場…大濠公園能楽堂（福岡市中央区大濠公園1番5号）

【参加団体】… 高千穂の夜神楽（宮崎県）／玉之浦神楽（長崎県）
球磨神楽（熊本県）／竹の曲（福岡県）

【 司 会 】… 神田紅（講談師）

【お申し込み方法】令和7年1月17日㈮必着

ハガキ ご来場者全員の①氏名 ②フリガナ ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号 ⑥年齢のメールアドレスを明記のうえ、ご郵送ください。
宛先：〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1-10F
西日本新聞イベントサービス内「日本の神様と舞い踊ろう」事務局
応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

スマホの方はコチラから